認知機能低下者における食形態の検討

景山貴央[1)]　河﨑雄司[2)]　河本記代子[1)]
長田由紀子[1)]　加藤和宏[2)]　杉原　勉[3)]

キーワード：認知機能低下，食形態，舌圧，活動性

要　旨

目的は入院患者を対象に認知機能を長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R），食形態は Functional Oral Intake Scale（FOIS）で評価し，食形態による認知機能低下への介入を考えることであった。方法として入院患者を HDS-R が10点以下，11～20点，21点以上の３群に分け，FOIS レベル，舌圧，及び活動性の指標としての ECOG-Performance Status（PS）スコアを群間比較した。その結果，FOIS レベルは HDS-R が10点以下の群で21点以上の群に比較して低値であり，FOIS レベル低値の食事の摂取が認知機能低下と関係していたことが考えられた。舌圧も HDS-R が10点以下の群において低値で，FOIS レベルと正に相関することを認めた。認知機能低下の群は舌の力が弱いことにより FOIS レベルが低値の食事を摂取していたことが考えられた。PS スコアは FOIS レベルと負に相関し，日々の活動性も食形態に関係していた可能性が考えられた。認知機能低下者では舌圧や活動性を上げることにより食事の形態が変わり，認知機能低下の緩和・予防に役立つ可能性があるように思われた。

は　じ　め　に

認知機能低下には食事の形態（以下食形態）が影響する可能性が報告され[1-2)]，食形態による認知機能低下への介入も考えられる。本検討では入院患者を対象に認知機能を長谷川式簡易知能評価スケール（以下 HDS-R），食形態は Functional Oral Intake Scale（以下 FOIS）で評価し，認知機能と食形態との関係を検討することにより認知機能低下への介入を考える。また，舌の力の指標である舌圧と身体活動性は認知機能との関係も指摘されているが，食形態を決定する因子とも言われるため[3)]，FOIS レベルに対する舌圧と身体活動性の関係も調べる。

Kiou KAGEYAMA et al.
1）安来第一病院看護部
2）同 呼吸器内科
3）同 乳腺外科
連絡先：〒692-0011 島根県安来市安来町899-1
安来第一病院看護部